

あい ネットニュース

AI-NET NEWS

NPO 法人 あいネットワーク大分

〒870-0029 大分市高砂町2番50号 オアシスひろば21(3階)
TEL(097)534-9600 FAX(097)514-3970

画期的

大分市で始まった 施設の垣根を越えた支援ネットワーク

「障がいのある人たちが
地域で安心して暮らせる環境づくりを応援します!!」

「大分市共同生活援助等緊急時通報システム」について
大分市福祉保健部障害福祉課の仲野龍男課長にお聞き
しました。



大分市福祉保健部障害福祉課
仲野龍男課長

利用者の安全確保と 地域住民の不安解消へ

「大分市共同生活援助等緊急時通報システム」の対象となるグループホームやケアホームで暮らしている利用者さんたちはどのくらいいらっしゃるでしょうか？

20代〜70代まで約300人の方が45の施設で暮らしています。

夜間は世話人さんらに常

駐の義務がないそうですね。

そうですね。すべてではありませんが、夜間、支援職員がいない施設があるため火災や地震等、緊急時の対応が万全でないのが現状です。

国は「障害者自立支援法」により、障がいのある人たちが地域で暮らすことを推し進めていますが、矛盾を感じますね。

そういった面は否めません。そこで大分市ではもしもの時のために利用者さんたちの安全確保はもとより、その家族や施設周辺の地域住民の不安を解消するために何ができるか、を考えました。

特に火災は心配ですね。

そうですね。数年前、長崎や別府で起こった火災では隣の住宅まで延焼するなど初期消火の重要性を痛感しましたし、地域住民の理解を得られないと障がいのある人たちが暮らすグループホームなどの住居そのものの確保が難しくなることも憂慮されます。

ボランティア精神で臨む 支援協力員たち

そこで、全国に先駆けて2月からスタートした「大分市共同生活援助等緊急時通報システム」とは？

医療法人や社会福祉法人等に勤務する職員が「支援協力員」として登録し、災害時に「博愛地域総合支援センター」の指示により、それぞれの協力員があらかじめ決められた最寄りの施設にすばやく駆け付けるといっています。

最寄りとは？

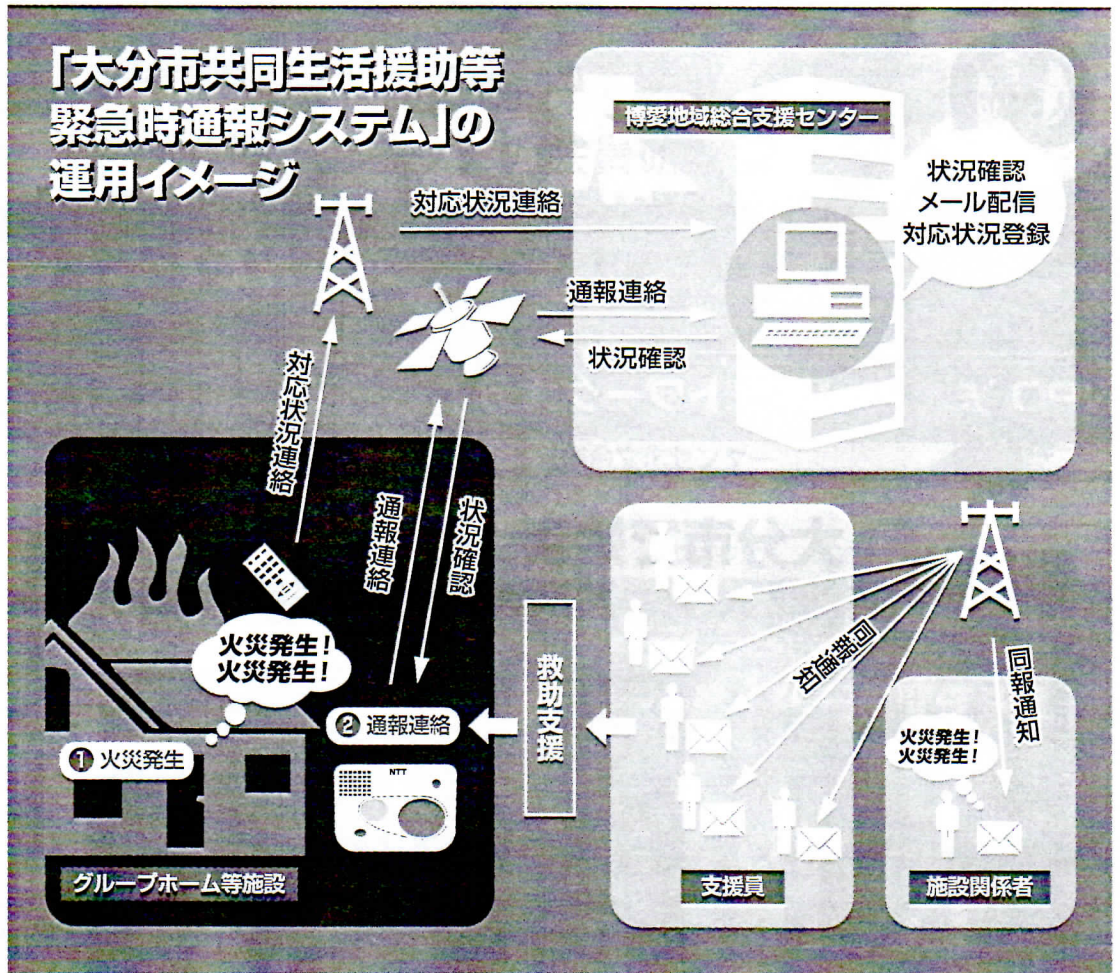
職員の方それぞれ自分の勤務する施設のそばに住んでいるわけではないので、施設の垣根を越えて、自分の勤務先とは違う最寄りの他施設に向かいます。

それは画期的ですね。立ち上げるまでの経緯を教えてください。

グループホームやケアホームを持っている、いないに関わらずすべての社会福祉法人やグループホーム等を所有している医療法人に声を掛けました。持っているところは協力的で、持っていないところも当初は多少の戸惑いも見られましたが、最終的には皆、納得し協力してくれることになりスムーズに事は進みました。登録された支援協力員は何人いらっしゃいますか？

206人です。

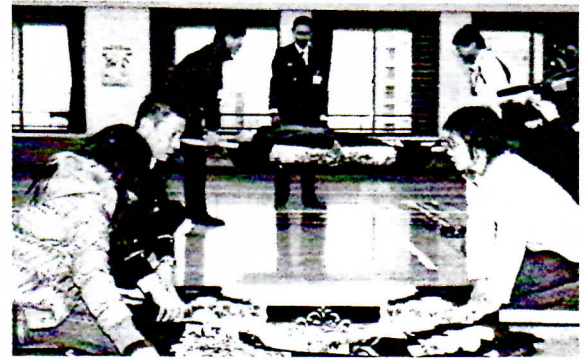
「大分市共同生活援助等 緊急時通報システム」の 運用イメージ



具体的な準備は？
2月までに協力員さんたちには担当する施設に顔を出してもらい、建物の構造、非常口や非常階段、避難場所の位置確認等を頭に入れていただくようお願いしました。

訓練等もされたのですか？
消防局で災害時講習を受け、毛布で即席の担架を作り搬送する訓練等を行いました。今後毎年2回程度、講習会や「施設からセンターが連絡を受信↓センターから協力員へ配信↓協力員が施設に駆け

付ける」という実地訓練を重ねていく予定です。



毛布で即席の担架を作り搬送する訓練を行いました

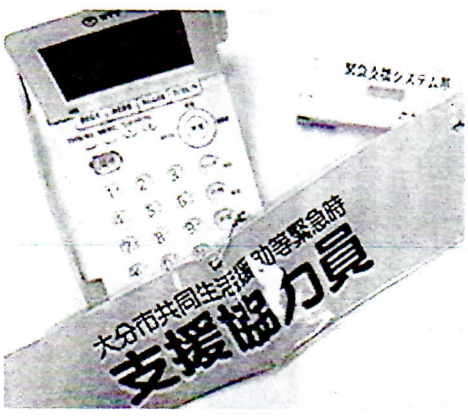
進化し充実していく 支援ネットワークの今後

一つの施設にだいたい協力員は何人くらい確保されていますか？
3〜4人のところもあれば10人のところもありますし、最寄りといっても車で30分ほど掛かる場合もあります。

そうなる地域住民に協力を仰ぐことも必要ですね。
そうですね。ただ、たとえば火災が起きた場合、まず逃げますが、利用者さんたちのなかには身体が硬直して動けなくなったり、一旦避難しても舞い戻ったりする方がいらっしゃるから、障がいのある人たちのそういった特性をよく理解した上で対処できるということが施設

職員さんに頼らざるを得ない部分もあります。ただ将来的には地域住民の方々を巻き込んでいきたいとは思っています。
今後の取り組みについて。
今年度、この事業に国の予算が付き、火災が起きた場合、施設からボタン一つで「緊急通報」できたり、火災感知器が作動して自動で支援センターに連絡が行き、さらに協力員にはメールで一斉配信されるというシステムを導入できることになり、来年3月頃からの稼働を予定しています。

さらに充実していきますね。
そうですね。火災などの災害が起こらないことが大前提ですが、こうしたシステムを構築してもイザという時にきちんと対応できないと何も意味がなく、ともしれば形骸化してしまう恐れもあります。ですから、そうならないためにも協力員の皆さんにはいつでも実践的な活動ができるよう我々行政もつねに啓発活動に力を入れていきたいと思っています。



腕章を巻いた協力員が駆け付けます

家族の声

今の施設と出会って12年になります。それまで子どもは職場に電車通勤していましたが、駅で自転車を盗られたりなどしたため、私が駅まで付き添ったりして大変でした。そこで、地元の自治体に相談し紹介されたのが博愛通勤寮でした。以来、朗らかに暮らしながら仕事に通っています。

ただ、近年、障がい者を取り巻く情勢も厳しくなり、特に障害者自立支援法(以下「支援法」)ができて子どもたちの預金から〇〇をしたら幾らかという風にいろんな費用が引かれていくので、そのうち無くなるんじゃないかと心配しています。子どもには「貯金しなさい」とは言っているのですが…。それから、支援法の制度の一環で、もしかしたら“通勤寮”という形での運営ができなくなる可能性もあるらしく、理事長に聞いたら「他のグループホーム等で暮らすようにするか、今の通勤寮をグループホームという形にするか思案中」とのことでした。先日、子どもは二人部屋から一人部屋に移ったらしく、いまの暮らしに満足しているので、できるだけ長く居らせてもらえればと思っています。まあ、心配といえばこういうことですね。

私たちが死んだ後は幸い(子どもの)兄ちゃん(通勤寮の)近くに家を建てていて、お盆の時も兄ちゃんの子どもらと一緒にご飯を食べに行くなど仲良くしてくれているのでまあ安心してます。

施設に対しての要望はありません。私たちの意見をいろいろと聞いてくれるし、理事長は子どもたちのことを一所懸命考えてくれるし、行動力も抜群です。施設長も職員さんたちもほんとによくしてくれます。いまの状態を維持していただければ願ったり叶ったりです。

(60代男性)



私の弟妹が今の施設のお世話になり始めたのは昭和50年2月でした。それまでは世間から差別され、人としての扱いを受けず端から見てもかわいそうでした。以来34年余、施設でさまざまな訓練を受けさせてもらい、今は福祉ホームでのんびりと草むしりなどしながら楽しく暮らしています。

自分が死んだ後は(私の)長女、長男が(叔母にあたる)妹たちのことはよく理解してくれているので、妹たちは生涯、平穏無事に暮らせると安心しています。そこで、妹たちの遺言の能力について弁護士さんに尋ねたところ、障がいの状況から自筆証書作成は不能と思われるため養子縁組をしたらいと薦められました。市役所では本人が戸籍簿どおりの署名が必要といわれ養子縁組も難しい状況で、どうしたものかと気になっています。

あいネットの活動にはできるだけ協力しています。特に『おでかけ相談会』は全施設の保護者に声をかけているので、他の施設の保護者と知り合いになれますが、どうしても顔見知りの方との話に偏ってしまいます。博愛会は交歓会や収穫祭などいろいろな行事があり、とても有意義です。

障害者自立支援法については研修会などを通して勉強してきましたが、なんとしてでもここ1、2年のうちに見直すというか根本的にやりかえてもらわんと困ります。障がい者自身が福祉サービス費の1割を負担する「応益負担」制度では、支援が必要な人ほど負担が増え、これでは(障がい者は)何のために生まれてきて、何のために生きているのか分かりません。理事長がしょっちゅう上京され見直しに奔走されておられるので、私たち自身も施設に頼りっぱなし、預けっぱなしではなく、もっと真剣にこうした見直し運動を後押ししていきたいと思っています。国のお役人には実際の現場を見てほしいものです。

(80代男性)



法律相談



顧問弁護士
三井嘉雄先生に
よる個別法律相談
(※相談無料)を
随時受け付けています。

あいネット事務局までお気軽にご
連絡ください。

複雑で分かりにくい『障害者自立支援法』とは一体どのような法律か?その問題点は何か?さらに保護者たちの不安を質問-回答のQ&A形式(30問以上)で分かりやすく解説しています。

この本の最大の特徴は知的障がいを持つ人の親や兄弟姉妹が書いたという点です。また監修には平成18年秋に別府市のビーコン



『障害者自立支援法 親の不安は、これだ!』
定価500円 発行:全国知的障害者施設家族会連合会

ブラザで開かれた研修会で講演していただいた全国知的障害者施設家族会連合会副会長で『あじさい園』(高知)の施設長をされている南守氏ら最強メンバーがあつています。一人でも多くの方々に読んでいただき、共に『障害者自立支援法』の抜本改正に取り組んでいくことではありませんか。あいネット事務局で販売中です。

先着順 定員 約80人

あいネットの会員研修会 [特別講師 無着 成恭氏] 開催!!

日時 10月25日(日) 13:30~16:00
場所 iichiko総合文化センター
地下1階映像小ホール



あいネットワーク第2回「音楽会」が 来年の2月14日に開催決定!

「第1回音楽会」に
たくさんの感想が寄せられました。

*気持ちグッと温かくなったり、思わず笑みが浮かんだり、アットホームな雰囲気のなか一緒に楽しむことができました。
(22歳女性)

*指導者の方々の苦労は大変だったことでしょう。500円は安すぎます。次回もぜひ聴きにきたいと思っています。
(71歳女性)

*孫が障がいを持っているので感慨深く拝聴しました。私ども家族にも明かりがついたように思いました。
(77歳女性)

「あいネット日記」

私の想い

皆さん、こんにちは、あいネットニュースの編集委員になった橋本です。今回「あいネット日記」を依頼され、考えあぐねた末、趣味の山歩きのことを綴ってみようと思いをします。

山歩きといつても私の場合は原下の低い山ばかりで、今回の目的地は「坊がつる讚歌」でおなじみの久住山麓の坊がつるです。休日前の晩、家内に紫蘇入りのおにぎりを3つほど作ってもらい、夜中の2時頃家を出ると3時半には長者原の駐車場に着きます。まだ夜空には満天の星が輝き、缶コーヒーを飲みながらシヤンソンやタンゴのCDに一人静かに聴き入ります。山歩きのなかでこの時間がいちばん好きです。やがて夜が白々と明けて来ます。

少し家族のこともお話ししたいと思えます。私は兄弟姉妹5人のうち上から3番目の長男として生まれました。父は太平洋戦争で戦死し、私は小さかったので顔はあまり覚えていません。次姉が障がいを持っていたため、母はよく世話をしていたことを子供心に感じていました。その母も亡くなつて来年13回忌を迎えますが、今の障がい者を取り巻く現状をどう報告しようかと思つています。そして母のことを思うと少ししんみりとなります。

いま私は好きなことをしたりして遊んでいます。時々姉に悪いなあと思うことがあります。これからも母の代わりは到底つとまりませんが、私なりに精一杯世話をしたいと思つています。姉も今度生まれ変わったら女の幸福を掴んでほしいと心から願つています。

あいネットワーク大分理事
(第一博愛寮保護者) 橋本中敬